「『歴史総合をどう考えるか』を使って実際に授業化してみた。」

—ミャンマーを事例に帝国による統治のあり方を考える—

鎌倉学園中学校・高校　　神田　基成
中央大学附属横浜中学校・高校　柴　泰登

はじめに　実施までの経緯

新課程が始まり、歴史総合をめぐる課題が全国的に取り上げられて久しい。それは過積載問題と進度・時間配分の難しさなどである。さらに歴史総合を担当した際の個人的課題もう木彫りになった。巷に溢れてはいるものの、歴史総合関連書籍が個人的にはしっくりこない。さらに言えば、高尚化する議論・実践についていけない。そして、由々しきは現代的な諸課題との接続を実施していないまま初年度目・2 年度目を終えてしまった。そんな中、神奈川の教員仲間たちで『歴史総合をどう考えるか』(山川出版社、2024 年)の出版にこぎつけた。この書籍は、第1部の通史概説と第2部のテーマが抱き合わせのユニークな構成で、テーマによっては現代的な視点に立って歴史学習に活用可能と思われ、使ってみたいと思っていた。しかし、今年度、歴史総合を担当していなかったため、世界史研究推進委員会での了解をとり、高2の世界史探究履修者を対象に、歴史総合と世界史探究をつなぐテーマ授業の実施を計画した。

中大附属横浜の柴先生が作ったプラン(柴プラン)を選定した理由は、近代から現代までを貫くテーマで実践ができそうだったことが大きい。ともかく、他人が作った教材が他人にも活用可能になるのか、教材研究の共有・活用の可能性を探るとともに、何ができて、何ができなかったのかを明らかにし、更なる議論を促すことにねらいを定めた。

1　柴プランの構成・内容

柴プランのテーマは、「ミャンマーにはどうして軍事政権が成立したのか」であった。ご自身のミャンマー体験に基づいた考察と教材作成は、情熱と使命感に溢れるものである。イギリスが残した負の遺産すなわち帝国主義時代の歴史的因果関係を根拠として、生徒が現代の事象を多様な要因で説明できるようにするのである。その構成は、書籍における「イギリスによる「分割統治」　ビルマ族と少数民族の乖離の始まり」、「ビルマ民族運動の高揚　タキン党の結成と民族運動の分裂」、「独立後の混乱と軍事政権の成立」の内容に対応するものである。この構成に対応するように、エキスパート資料（あ）（い）（う）が用意されている（後掲参照)。ともすると「ミャンマー＝軍事政権下の国」という図式で捉えがちな地域を高校生は、どう説明できるのだろうか。生徒には、「ビルマ族と少数民族に生じた乖離と対立の歴史」に注目してもらい、「ミャンマーにはどうして軍事政権が成立したのか」を考えてもらいたいという理念で作成されている。今回実施するにあたり、授業者も生徒も知識構成型ジグソー法に慣れていないことから、柴先生から簡易版を提供してもらった。ここでは、ミャンマーという歴史的な場に３つのアクター（「イギリス政府」「ビルマ族」「少数民族」）を設定している。オリジナルのプランでは、展開部で「トゥールミン＝モデル」、「KJ 法」を使用、まとめで「シンキングツール」を使う工夫がなされている。

授業配布資料（い）：生徒B

MQ：ミャンマーにはどうして軍事政権が成立したのか
（5分）

STEP1：エキスパート教材（い）を読み、SQ1・SQ2に取り組んでみよう。
タキン党の歴史
（目標10分）

年号	出来事
1930	・タキン党（我らビルマ人協会）が結成される
1936	・選挙に出馬、3名が当選 →一時的に活動停止
1939	・バモウ博士らとともにイギリス政府に独立承認を迫るが、弾圧される →アウンサンらは日本に亡命し、日本で軍事訓練を受ける

タキン党幹部：イギリスの非道な統治には我慢ならない、「民族自決」の精神のもと、独立を目指していこう！！
部下：もちろんです。ところで、タキン党が掲げる「ビルマ人」の中には、山にいる少数民族は入っているのですか？
幹部：当然だ！我々は独立後には国民国家建設を目指すのだからな。
部下：しかし困ったことが。カレン族などは独自の民族運動を行っていて、声をかけてもタキン党には協力してくれないのですよ・・・どうしてなのでしょうか？

SQ1：エキスパート教材（あ）からは、どのような歴史的事実が読み取れるだろうか。

イギリスがミャンマーでビルマ人を圧迫していた。ミャンマーに住むビルマ人が独立しようと反発したが結局イギリス政府により弾圧されてしまった（少数民族の協力は得られなかった）

SQ2：SQ1に基づきながら、MQに対する疑問点を挙げてみよう。

本当に交渉等だけで独立は出来なかったのか、軍事政権をつくるまでのものだったのか。

STEP2：エキスパート教材に基づいてジグソー活動を行い、3人の意見をまとめてみよう。
（目標15分）

イギリス人は少数民族を優遇。
ビルマ人との差。

イギリスは多数派のビルマ人を圧迫していたため、ビルマ人は独立しようとし少数民族に協力を求めたが無理だった

独立後ビルマ人政府は少数民族を圧迫した。⇒協力してくれなかった

⇒

イギリスは少数民族とビルマ人の間で対遇の差を設けることで、独立を阻害し、独立後もそれぞれの民族間でのあつれきがあり、それは話し合いで解決できなかったため政争が起こり、武力の差でビルマ人が勝ったことで軍人が台頭した為、ビルマ人中心の軍事政権が誕生した。

STEP3：クロストークを行い、それに基づいて自分の最終的な意見をまとめてみよう。
（目標15分）

タキン党が目指していた形とは程遠い形で独立した。
（少数民族とビルマ人で仲たがいが起きた為）
イギリスの統治のやり方には仲たがいさせ、独立後も裏で支配しようという思惑があったのかもしれない。

授業配布資料（あ）

MQ：ミャンマーにはどうして軍事政権が成立したのか
（5分）

STEP1：エキスパート教材（あ）を読み、SQ1・SQ2に取り組んでみよう。
ミャンマーの民族構成
（目標10分）

主要8民族	構成比
バマー（狭義のビルマ民族）	69.0
シャン	8.3
カレン（カイン）	6.2
アラカン（ラカイン）	4.5
モン	2.4
チン	2.2
カチン	1.4
カヤー（カレンニー）	0.4
その他	5.6

イギリス総督：やれやれ、ようやくビルマの征服が終わった。さて、ここからどうやって統治していこうか。
部下：聞くところによればビルマには多くの少数民族がところ住んでいて、ビルマ族も絶対的多数ではないらしいですよ。
総督：なるほど。ならば、彼らを仲違いさせれば、我々に団結して抵抗してくるということは無くなるな。
部下：そうです、総督。あえて少数民族を優遇し、ビルマ族の不満がそちらに向くようにする分割統治を行って、効率よくビルマを支配していきましょう！

SQ1：エキスパート教材（あ）からは、どのような歴史的事実が読み取れるだろうか。

バマーは最大多数とはいえ支配的とは言えず、英国の施策による少数民族の優遇が行われ、バマーが少数民族に不満を持つよう仕向けられた。

SQ2：SQ1に基づきながら、MQに対する疑問点を挙げてみよう。

民族間の対立が存在したとしても、それが直接軍部の台頭にはつながらない。数としては過半数を上回っているので、民主的な制度で影響力を拡大してもよいのでは。

STEP2：エキスパート教材に基づいてジグソー活動を行い、3人の意見をまとめてみよう。
（目標15分）

英国による植民地政策であるため、少数民族を優遇したことで対立が起こった

多数派である英国からの独立に対し少数民族が（バマーに）協力しなかった

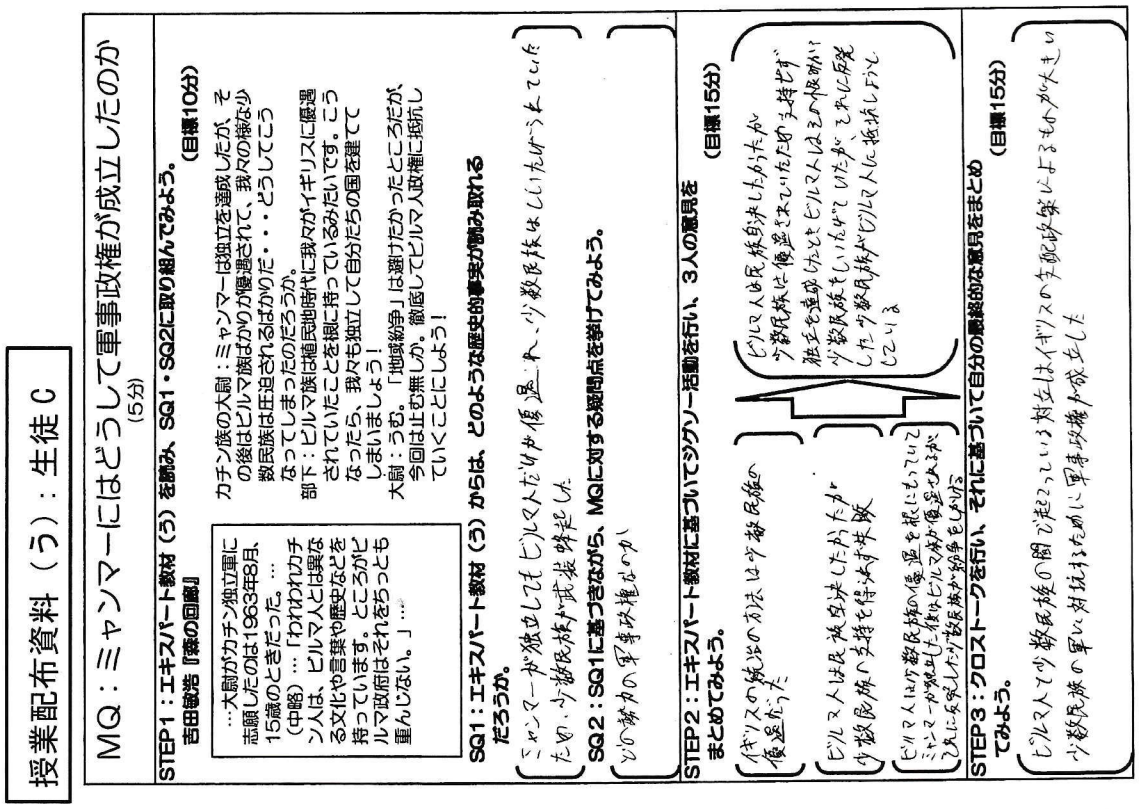
独立後政府は少数民族を軽視し自分たちの文化、歴史を守ろうと独立を目指した

⇒

英国の植民地政策により、少数民族の優遇が行われたことでバマーの不満が生まれた。独立し国家建設の障害となり（民族対立に）
独立後の国内で少数民族の圧迫が行われた、そのできの民族対立の影響で少数民族の側は自らの文化、歴史を守るため独立を企て、国民国家の建設を目指す
政府はそれを押さえるため軍事力を用いざるを得なくなり、軍部が力を持つようになった。

STEP3：クロストークを行い、それに基づいて自分の最終的な意見をまとめてみよう。
（目標15分）

英国が国境での抵抗運動を防ぐため少数民族の優遇を行い、民族対立を引きおこした。この対立は独立にも影響して、国民国家建設後はその対立の影響で少数民族が圧迫された。少数民族側は民族自決のために独立を企てて政府に抵抗し、国民国家を志向する政府はこの鎮圧を行うが、そこで軍事力を用いることが多くなり、軍部の強化、発言力の上昇を招き、軍事政権が成立することにつながった。



授業配布資料（う）：生徒C

MQ：ミャンマーにはどうして軍事政権が成立したのか
（5分）

STEP1：エキスパート教材（う）を読み、SQ1・SQ2に取り組んでみよう。（目標10分）

吉田敏浩『森の回廊』

…大尉がカチン独立軍に志願したのは1963年8月、15歳のときだった。…
（中略）…「われわれカチン人は、ビルマ人とは異なる文化や言葉や歴史などを持っています。ところがビルマ政府はそれをちっとも重んじない。」…

カチン族の大尉：ミャンマーは独立を達成したが、その後はビルマ族ばかりが優遇されて、我々の様な少数民族は圧迫されるばかりだ・・・どうしてこうなってしまったのだろうか。
部下：ビルマ族は植民地時代に我々がイギリスに優遇されていたことを根に持っているみたいです。こうなったら、我々も独立して自分たちの国を建ててしまいましょう！
大尉：うむ。「地域紛争」は避けたかったところだが、今回は止む無しか。徹底してビルマ人政権に抵抗していくことにしよう！

SQ1：エキスパート教材（う）からは、どのような歴史的事実が読み取れるだろうか。

ミャンマーが独立してビルマ人だけが優遇され、少数民族はしいたげられていた
少数民族が武装蜂起した

SQ2：SQ1に基づきながら、MQに対する疑問点を挙げてみよう。

どの勢力の軍事政権なのか

STEP2：エキスパート教材に基づいてジグソー活動を行い、3人の意見をまとめてみよう。（目標15分）

イギリスの統治の方法は少数民族の優遇だった

ビルマ人は民族自決したが少数民族の支持を得られず失敗

ビルマ人は少数民族の優遇を根にもっていてミャンマーが独立した後はビルマ族が優遇されるが反発し少数民族が紛争をしかけた

ビルマ人も民族自決したが少数民族は優遇されていたので支持せず独立を達成したとビルマ人はまた仲間が少数民族もいたがそれに反発した少数民族がビルマ人に抵抗している

STEP3：クロストークを行い、それに基づいて自分の最終的な意見をまとめてみよう。（目標15分）

ビルマ人と少数民族の間で起こっていた対立はイギリスの支配体制に反発する少数民族の強い対抗するために軍事政権が成立した

2　授業記録

授業実践の対象は、鎌倉学園高等学校高２文系の一貫生と高校入学生の混合クラス（１クラス 16 人）を２クラスとした。2025 年２月 19 日（水）の３時限目と４時限目にそれぞれ実施した。単元の設定は、もともと世界史探究の授業であることから、実践日までに「前近代の東南アジア」を始点として、世界史探究の内容を学習し、その後の自習時間を使って歴史総合における「近代化」、「国際秩序の変化・大衆化」、「グローバル化」の各まとまりの中のミャンマーに関連する部分をワークブックの内容で復習してもらった。さらに事前の導入と動機づけとして、Web マガジン「クーリエ・ジャポン」ロヒンギャに対する迫害問題の記事を課題とした。こうして、共通テストに向けた話を混ぜながら「歴史総合」と「世界史探究」との接続を意識させ、前近代、近代、現代、戦後の東南アジアを整理して臨んだ。

事前に計画した授業実践の展開は以下の通りである。実践は、概ね以下の計画に則って進んだ。

	指導計画	指導内容
導入 （5 分）	①資料（あ）（い）（う）配布（2 分） ②問いについての説明（3 分） ・初めての知識構成型ジグソー法形式授業	ジグソー活動の意義や、情報処理の速度、歴史の作法について触れる。

	→授業形式のねらいなどを簡単に説明	
エキスパート活動（10分）	①グループ分け指示・席移動（2分） ②エキスパート活動（8分）	読み解く資料が3種類、それぞれの立場から資料を考察する。 時間不足を懸念し個別のエキスパート活動とし、机間巡視でガイド。（**写真1**）
ジグソー活動（15分）	①各エキスパート教材の内容（考察含む）を班で共有（5分） ②ジグソー活動（10分）	5分経過後に、キーワード「統合と分化、帝国主義、民族運動、地域紛争」を板書し、視点を誘導。（**写真2**） 生徒の反応＝資料の時系列を意識している
クロストーク（15分）	①クロストーク（10分） ②各自で問いに対する解答（5分）	答えに「白黒」で決めない姿勢が見られるか観察する。（**写真3**）
まとめ（5分）	①生徒の解答の発表（3分） ②教員によるコメント（2分）	生徒の発表では、グループ間を生徒自身が比較し関連付けるなど工夫が見られたクラスがあった。工夫や気づきが乏しかった場合には、教員コメントで補足した。

3　授業後の生徒の感想

生徒の感想は概ね好意的で、達成感や向学心にもつながる結果が出ていたことは期待以上の結果だった。授業のアンケートの質問と回答は以下の表の通りである。

1、今回の授業形式はどのように感じましたか。	割合（%）	2、歴史を思考する方法を学べたと思いますか。	割合（%）	3、知識は増えましたか。	割合（%）
とてもおもしろい	34.5	とても思う	37.9	とても増えた	13.8
おもしろい	48.3	思う	58.6	増えた	82.8
どちらでもない	13.8	どちらとも言えない	3.4	どちらとも言えない	3.4
おもしろくない	3.4	思わない	0	増えてない	0
全然面白くない	0	全然思わない	0	全然増えてない	0
4、さらに調べてみよう、勉強しようと思いましたか。	**割合（%）**	**5、どのStepが関心もって取り組めましたか。**	**割合（%）**	**6、既習の学習内容が深まりましたか。**	**割合（%）**
とても思った	20.7	Step1	24.1	とても深まった	20.7
思った	51.7	Step2	62.1	深まった	72.4
どちらとも言えない	17.2	Step3	10.3	どちらとも言えない	6.9
思わなかった	10.3	関心を持てなかった	3.4	深まっていない	0
全然思わなかった	0			全然深まっていない	0

改善点があるとしたら、どのようなところですか。具体的に教えてください。（抜粋）
情報がもっと欲しい。最後に事実としてどのようなことが理由として挙げられるかを教えてほしかった。同じ資料を読んだ人同士の意見交換もやったらより面白いかもしれない。STEP1 の、SQ2 における SQ1 に基づいた疑問点を解消する時間も欲しいなと思いました。ディスカッション形式の授業は初めてで、とても面白かった。歴史の繋がりをより理解できたので、またこのような機会があるといいなと思う。最後に先生の意見を聞きたい。50 分だけだと時間の短さを感じた。もう少し時間が長ければ自分の考えをもっと良いものが出せたと思うし、話し合いももっと活発な意見交換も出来てもっとより深い話し合いや考えが出たのではないかなと感じたまた導入少なめで、自分たちでフルで頭を使って一から作り上げていくものでも楽しいと思います。 振り返りや先生がより詳しく説明する時間がもう少し欲しかった。 特になし（5 件）

4　授業者の感想と今後の課題

アンケート結果にも表れているように、良い意味で未知数の生徒を甘くみていたようである。普段やってこなかった作業を主体的にかつ論理的にやって、形にしようと言う姿勢が見られ、講義型授業では主体性が乏しいと思えた生徒でも積極的に資料を読む姿勢が見られた。授業者自身も不慣れなジグソー法を取り入れた形式を簡易ながら実践できたことでは大きな達成感を感じることができた。しかしながら、一部でエキスパート活動の時間を取れなかったことは今後の課題として残った。また、「世界史探究」と「歴史総合」とのつながりはもっと強く描き出すことができるのではないか。これは検討が必要である。そして歴史総合における「私たち」という当事者意識も弱かったと感じている。さらには授業中の評価とテストによる評価をどのようにするかも練れていない。

おわりに

教員の探究は、授業コンテンツを面白く内容的にも深みのあるものになると考える。それでも、全ての時代・地域の専門性を高めることには時間と労力がかかる。1 年間の授業は否応なしにカリキュラム通り進めざるを得ないので、こうした「労作」を活用できれば、授業にもメリハリと深みが出るのではないだろうか。「生徒たちは効率の良い受験対策を望んでいる」という思い込みは、生徒の多様な学びの形式への可能性を閉ざしていたのではないだろうか。そんな問題意識を新たに持てたことは、今回の実践に臨んでの最大の収穫である。ただ、この収穫から、新たな種まきと更なる収穫へと繋げられるか否かは自分自身の今後にかかっている。知識構成型ジグソー法を活用して、地域世界を総括するような使い方として回数を増やせるよう、他人の「労作」を活用するばかりではなく、複数の「アクター」を設定、資料を揃えて実践するとともに、他者に使ってもらえるような教材の作成を試みたい。最後に教材と授業観察でご協力いただいた柴先生に感謝申し上げたい。

≪参考文献≫

NPO 法人神奈川歴史教育研究会編「歴史総合をどう考えるか」山川出版社　2024